



学生数/1,942人 専任教員数/136人 専任職員数/55人
 学部/看護(看護)、総合リハビリテーション(理学療法、作業療法)、医療技術(臨床検査、臨床工、診療放射線、鍼灸)
 大学院/保健医療学(保健医療学、医療科学、看護学)
 専攻科/助産学



執行部のたゆまぬ挑戦が 教職員の改革意欲を促進

森ノ宮医療大学

2007年の開学以来、スピード感あふれる成長を遂げる森ノ宮医療大学。大学の成長を支える組織運営のしくみ、教職協働の工夫について理事長に話を聞く。



理事長
清水 尚道
 しみずなおみち ●1968年生まれ。立命館大学経済学部卒業。企業勤務などを経て森ノ宮医療学園に入職し、大学開学プロジェクトに携わる。企画室室長、副理事長を経て2013年より第5代理事長に就任。兼任で第7代森ノ宮医療学園専門学校校長。

教職員の仕事を分け 協力を生む体制に

本学は2007年に創立した医療系総合大学です。開学時は1学部2学科体制でしたが、現在は3学部7学科体制にまで拡充しています。

開学当初はコンパクトな運営を重視したため、従来の大学であれば職員が担う教学支援や入試関連の事務業務を、教員が兼務で行っていました。しかし、教員、職員にはそれぞれの果たすべき役割があると考え、その役割を明確にして業務も分け、担当業務を全うしてもらうことにしました。ただし、チームの構成員として、教職員が一緒に業務を進めています。教職協働とは、教員と職員が分けてなく同じことを行うというのではなく、各役割を果たす中で、それぞれの強みを引き出し、弱みを補い合いつつ業務の質を上げていくことだと考えています。

業務の繰り返しでなく 常に刷新する意識を持つ

企業は生産性向上のため、毎年、効率化を図りますが、教育現場は毎年、同じ業務を繰り返しがちで

を補い合いつつ業務の質を上げていくことだと考えています。教職協働が円滑に進むように、普段から教職員の接点を増やす工夫もしています。例えば、教員用のメールボックスを事務室内に設置しているため、教員が立ち寄った折に職員と会話をする光景が日常的に見られます。教職協働は互いのリスペクトが鍵です。特に、本学の教員は「異職種の人と協力しないと仕事は成り立たない」病院勤務経験者が多いこともあり、職員に対するリスペクトの意識が高く、協働がうまく進んでいます。また、学長のリーダーシップの下、部署や教職員の垣根を越えたプロジェクトも多数行っています。会議では、教員・職員が同じ立ち位置で協議します。13ある各センターにも、大学運営の最上位の会議体である管理運営会議にも、教員・職員の両者が構成員として入っているため、情報共有がスムーズです。

私はこの点に危機感を覚え、理事長就任当初は意識的に大学業界を知らない他業種の職員を採用しました。そのため、職員に「ルーティン業務をこなしていればいい」という発想はなく、変える意識を持ち続けています。教職員には常に新しいことに取り組んでほしいと話しています。しかし、メッセージを発するだけでは伝わらない部分があります。本学はこの10年間、教育の充実のため、「病院と同じ環境となる学部学科構成」をめざし、臨床検査や診療放射線など、4つの学科を新設、大学院も設置しました。執行部自身が新しいチャレンジを続け、大学そのものが成長しているという事実が、教職員の成長意欲につながってほしいと思います。

歴史の浅い大学であり、すでにブランドを確立している大学と同じことをしては太刀打ちできません。本学が位置するエリアには、企業の研究拠点や大阪府の庁舎があり、高齢者が住む住宅地も隣接しています。今後はエリア特性を生かし、産官学連携によるヘルスケア研究を進めるなど、他大との差別化を図り、自学の価値をより一層上げるよう努めていきたいと考えています。

組織力を高める主な取り組み

大学の課題を自分事化するしくみ

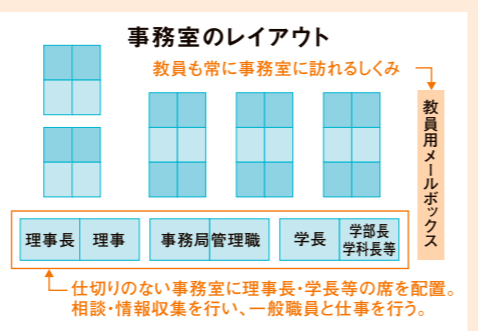
- ▶「事業計画・予算計画」は各学科(教員組織)、各事務組織で作成。各組織で責任を持って遂行する
- ▶「事業計画・予算計画」には新規事業を入れる。執行部は予算がクリアしていれば、積極的に採用する
- ▶ 決裁権は、かつては全て理事長にあったが、規程を変えて組織の長に権限を委譲

風通しよく、任せる風土づくり

- ▶ 新しい施設・設備の検討に関するプロジェクトは若手職員中心のメンバーで検討・推進する
- ▶ 経営に関する情報は原則、全て公開。教職員の管理職が全員参加する管理運営会議で執行部の考えを伝え、各部署の職員に浸透させる

コミュニケーションを促進する環境づくり

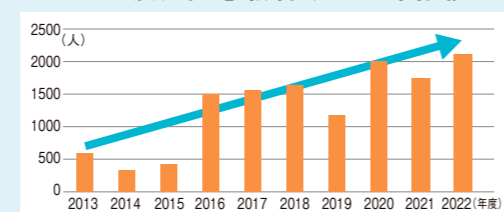
- ▶ 一般職員と同じ事務室で、理事長・学長・事務局管理職が執務できるレイアウト。一般職員と経営層が日常的に密なコミュニケーションを取ることが可能。トップダウンとボトムアップを同時に機能させる
- ▶ 事務室の一角に教員用メールボックスを配置。教員が常に事務室に訪れるしくみをつくる



注目! 教育環境の充実を図り 教育と広報の両輪で募集力を高める

開学1年目の2007年度の志願者数は1,000人程度。開学4年目には300人台にまで減少したが、2011年度の看護学科を皮切りに、臨床検査学科や作業療法学科など、矢継ぎ早に学科の増設を進めている。医療系の大学は分野(学科)が増えるほど、実際の病院の環境に近くなり、教育が充実するという考えがあるからだ。志願者数は2016年度の2学科設置時には3倍以上に増加した。関西エリア外からの受験者も増え、北海道や沖縄からの入学者もいる。大学の認知が高まり、志願者が増えたことにより、入学者の学力も上がっている。「国家試験合格率が上がり、そのエビデンスの認知がまた優秀な学生を呼び込む、という好循環が望ましい。教育と広報は募集力の両輪。教員と職員が協力しやすい環境づくりを進め、さらなる募集力アップをめざす」と清水理事長は意気込む。

【図表1】一般入試志願者数10か年推移



【図表2】合格者の平均偏差値(進研模試受験者)

